

センターだより

第70号



センター中庭に咲く白サザンカ

目次

- ・年頭挨拶 2009年の新しい年を迎えて 中村欣三所長 2
- ・訓練機器紹介 理学療法部門 3
- ・利用者募集活動の取り組みについて 4
- ・第28回大分国際車いすマラソン大会 5
- ・第17回文化祭 6
- ・行事アラカルト 7
- ・修了生の状況、利用者募集案内等 8

指定障害者支援施設

国立別府重度障害者センター

2009年の新しい年を迎えて

所長 中村 欣三

新年明けましておめでとうございます。

皆様には素晴らしい年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

さて、2008年は米国のサブプライム問題に端を発して金融危機が世界的に広まり、世の中には不況の嵐が吹き荒れました。日本でも米国の需要の冷え込みや世界的な不況の波にのまれたうえ、急激な円高による輸出の落ち込みで製造産業を中心にリストラや派遣社員の打ち切り、採用内定の取り消しなどが広がり、これまでに無かったような不況の重苦しい状況が今に続いています。

一方、明るい話題としては、2008年のノーベル賞を日本人4人が一度に受賞しました。物理学賞の南部陽一郎氏、益川敏英氏、小林 誠氏、化学賞の下村 脩氏です。授賞式式典では司会者が日本語で紹介するほどでした。また、北京ではオリンピックに続いてパラリンピックが開催され、日本人選手が大活躍しました。

国内でも第63回国民体育大会「チャレンジ！おおいた国体」、続いて第8回全国障害者スポーツ大会「チャレンジ！おおいた大会」が開催され、その後、大分車いすマラソン大会が開かれました。

障害者スポーツ大会には残念ながら当センターから選手を出せませんでした。車いすマラソン大会には池田選手、長崎選手の2名が出場し、初出場ながら長崎選手がT51という最も重いクラスで2位に入るという快挙を成し遂げました。

当日は冷たい雨がぱらつく天気です。出場選手には厳しいコンディションでした。私も朝から応援に行き、難関である弁天橋の登り坂では選手の力走に思わず「頑張れー！もうすぐ坂が終わるぞ！」と、ややもすると止まってずるずると後退しそうになる選手に向かって車道に身を乗り出し声援を送りました。選手の持てる力を振り絞って力走する姿に素晴らしい感動をいただきました。

現在、厚生労働省の社会援護局・障害保健福祉部では「国立更生援護機関の今後のあり方に関する検討会」が進められています。国立施設は障害者の社会参加のため戦後の昭和20年代から身体に障害のある方へ必要な支援を行ってきており、情勢にあわせてこれまでも何度か改革をしてきましたが、これまでにない社会経済情勢や取り巻く環境の大きな変化に対応するため、今後の施設の役割や機能を検討するものです。

検討会では2月まで検討を重ね、3月には報告書としてまとめると聞いています。

当センターでは自立支援施設として頸髄損傷の方を中心に利用していただいておりますが、昨年は42名の方が修了し家庭復帰（24名）や復職（3名）、施設入所（12名）などを行っています。施設入所の中には療護施設（5名）の方もいますが職業能力開発校（2名）や就労継続支援施設（1名）へ入られ、一般就労へ向けて踏み出した方もいます。また、

家庭復帰された方の中には当センターで習得したトールペイントや手織りの技術を活かして在宅で製品を作り、業者に委託して販売している方もいます。今後はインターネットを活用した販売も計画しています。

頸髄を損傷して四肢マヒとなる方は年間約3000人いると言われていています。その方々が初期の治療を終えた後もリハビリのため病院を転々とし、退院後も自宅で全て介護を受けながら過ごすのではなく、積極的に自立支援施設を活用して機能訓練や職能訓練を受け、自分でできることの範囲を広げ、地域で自立した生活をおくる。そのために私どもの施設が存在するのであり、職員一丸となって頸髄損傷者をこれからも支援し続けなければならないと考えています。2009年はこれまで以上に施設をPRし頸髄に損傷を受けた方々に活用していただくとともに、これまで培った訓練や介護のノウハウをより積極的に広めていく所存ですので、どうぞ引き続き皆様方のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

訓練機器紹介

理学療法部門

当センターでは、近年、頸髄不全損傷者の入所が増加しています。不全損傷者の訓練プログラムは、残存する下肢機能をいかに向上させ ADL 拡大を図るかが、一つの大きなポイントになります。そのため、PT 訓練では、下肢の機能向上や歩行能力向上を目指し下肢機能が残存する利用者に対し、積極的に起立・歩行訓練を行っています。

今回は、その起立・歩行訓練に活用されている訓練機器について紹介します。

今年度より、写真のようなサドル付き歩行器“セーフティウォーカー”を導入しました。この歩行器は、ガススプリングによる起立補助機構付きのサドルが取り付けられており、膝折れ時にもサドルが安全に体重を支えます。また、上体を四方からサポートでき、サドルの機能とあわせて使用すれば、転倒の危険性が極めて少なく、安全に起立・歩行訓練が行えます。また、センター独自の加工として後方車輪に摩擦抵抗調整機構を取り付けたことにより、歩行速度の調整が可能となり歩行中に体が前のめりになり易いことを改善しました。これらの機能により、以前はスタッフ一人では対応困難であった利用者の歩行器訓練も一人介助で比較的容易に行うことができるようになりました。さらに訓練が進捗するとスタッフの介助なしでも歩行が可能となる利用者も多く見られました。また、この歩行器は歩行訓練のみならず、サドル部を下降させそこに座った状態からの立ち上り訓練や、立位保持訓練も安全に行えるため、現在多くの利用者が使用しています。日常、座位で過ごしている利用者にとって、二本の足で立つということは人間本来の姿勢であり、身体面・精神面の改善に非常に効果的です。

今回、この歩行器を導入することにより、下肢機能が残存する利用者に対し、以前よりも効果的な起立・歩行訓練を提供できるようになりました。利用者からも「歩きやすい」「転倒の心配が少ないので安心して歩ける」等の声が聞かれています。これからもこの歩行器を多くの利用者の起立・歩行訓練に役立て、ADL 向上に繋がる訓練を提供していきます。また今後、この歩行器のほかにもセンター利用者に有効であろう機器の情報収集や、デモ機の設置等を可能な限り行っていきます。



(歩行器「セーフティウォーカー」)

利用者募集の取り組みについて

指導課

センターでは、より一層多くの方々に当センターのサービスを利用させていただくために、報道機関への広報活動や病院等への電話による募集、また、医療機関等施設へ訪問し当センターの利用案内や支援内容の説明を行う等、利用者募集活動を積極的に行っております。

今年度は、以下の医療機関等関係施設への募集活動計画を立て、順次訪問を行っております。

	訪問地域	施設等名
1	広島県三原市	広島県医療ソーシャルワーカー協会
2	広島県広島市	西広島リハビリテーション病院
3	山口県山口市	山口県医療社会事業協会
4	山口県下関市	光風園病院
5	福岡県福岡市	福岡県医療社会事業協会 友愛病院
6	福岡県北九州市	大手町病院
7	長崎県時津町	長崎百合野病院
8	長崎県長崎市	長崎県社会福祉士会 長崎原爆病院
9	宮崎県宮崎市	宮崎県医療ソーシャルワーカー協会
10	熊本県熊本市	熊本機能病院地域ケア支援センター
11	熊本県熊本市	熊本県医療ソーシャルワーカー協会
12	宮崎県宮崎市	迫田病院
13	宮崎県宮崎市	県央地域リハビリテーション広域支援センター
14	宮崎県宮崎市	宮崎社会保険病院
15	宮崎県延岡市	延岡リハビリテーション病院
16	宮崎県延岡市	平田病院
17	大分県別府市	大分県立別府養護学校

また、利用者募集活動の一環として、当センターの行うサービス内容を解り易く紹介することを目的に新しいパンフレット「リハナビ」を作成しました。この「リハナビ」は、利用者がセンターに入所してから修了するまでの流れを、順を追いながら理解できるように構成されています。

今後、センターのPR活動も兼ねて、この「リハナビ」を積極的に活用して

いきたいと考えております。



(新パンフレット「リハナビ」表紙)

第 28 回大分国際車いすマラソン大会

スポーツ訓練 木畑聡

「いいペース。下りをうまく使ってペース上げて！」。私は毎年ここ弁天大橋の中間地点でタイムを読みます。スタートから 3 km 地点で、ここの通過タイムでコース中の難関 5 km 関門の通過が予測できます。橋の上は冷たい風が選手はやや後方から吹いています。長崎選手は予想どおりのタイムで余裕を持って通過していきます。池田選手の姿が橋の彼方に見えます。肩をフルに使って必死になって漕いでいきます。制限時間 27 分が刻々と迫っています…。

平成 20 年 11 月 9 日 11 時 03 分、雨上がりの肌寒いコンディションの中、第 28 回大分国際車いすマラソン大会のハーフマラソンがスタートしました。今年センターからは池田さんと長崎さんの 2 名が出場しました。いずれも T51 クラス（車いすマラソンでは最も機能的に重度のクラス）での参加です。ハーフマラソン 200 名近い参加者の中で T51 クラスの参加選手は毎年 10 名にも満たない状況が続いています。センターからも毎年、1～2 名が T51 クラスで参加し、完走を目標に挑戦を続けています。

今年も、7 月から本格的な練習を始め、1 回に 20km 程度走りこんで準備をしてきました。直前の 5 日には、ドイツの車いすマラソン T51 クラス世界最高記録保持者ハインリッヒ・クーベールさんと奥さんのグッドランさんがセンターを訪問され、参加選手を励ましていただき、選手・職員ともども思いっきりボルテージを上げて大会に臨むことができました。

今大会は、ここ数年では選手にとって風と寒さとの戦いとなる厳しいコンディションでした。池田選手は、大会前一時調子を落として心配されましたが、当日は本来の調子を取り戻しすばらしい走りができました。しかしながら、関門手前で制限時間が過ぎてしまい完走することはできませんでした。長崎選手は、実力を十分に発揮し、初出場ながら初完走とともに T51 クラス 2 位という快挙を成しとげました。

また、今年には近年修了した 10 名近くの OB・OG が参加したこともお伝えしておかなくてはなりません。自宅等に戻られて、時間を作り周囲との調整をしながら練習に打ち込み、晴れの舞台で走っている姿を見せたいただくことは、センター利用中の利用者にとって、また我々職員にとって本当に大きな励みとなります。OB・OG の皆様とは来年の大会会場でお会いできることを心待ちにするとともに、引き続きひとりでも皆様の仲間が増えるように、センターとして取り組んでいければと思っています。



(河川敷での練習風景)



(車いすマラソン大会当日)

第17回文化祭

指導課

去る11月1日（土）、第17回文化祭が開催されました。

文化祭当日を迎えるまで、利用者6名を含めた文化祭実行委員が中心となって協議を重ね、テーマやポスター、企画内容等について検討してきました。

テーマは実行委員が考えた案の中から、池田さんの「One for all, all for one」に決定しました。ポスターは利用者の中から9作品の応募があり、実行委員会で検討した結果、文化祭実行委員長でもある長崎さんの作品が選ばれました。ポスターにはしっかりと握られた二つの手が大きく描かれており、人と人との「つながり」や「結びつき」をイメージできるような、あたたかさを感じられる作品となっています。

当日は、訓練紹介、福祉車両の展示、特別企画、模擬店等で文化祭を彩りました。

訓練紹介では、PT、OT、スポーツ訓練紹介をはじめ、福祉機器の展示、トルペイント体験や名刺作成販売等の企画もありました。

また、今年は特別企画として別府大学音楽研究部、シンガーソングライター 真北聖子さん（当センター修了生）を特別ゲストに招き、演奏会が開催されました。

別府大学音楽研究部は歌謡曲からジャズまで幅広いジャンルの音楽を演奏し、会場にいる人々を楽しませてくれました。また、真北聖子さんは、キーボードを演奏してオリジナル・ソングを披露し、会場に響き渡る美しい歌声に、聴いている人々の心もすっかり魅了されていました。

実行委員会の利用者の方をはじめ、多くの利用者の方が積極的に関わっていただいたおかげで第17回文化祭も盛り上がる事が出来ました。また、地域の方々にもセンターの訓練内容を知って頂く良い機会になったのではないかと思います。

これからも、皆さまから頂戴した意見を参考にしながらより良い文化祭の実施に向けて検討していきたいと思っております。文化祭の運営にご協力頂いたセンター内外の多くの方々、並びに、ご来場頂いた方々にこの場を借りてお礼申し上げます。



行事アラカルト

指導課

バスピクニック

まだ残暑が厳しい9月3日、レクレーションの一環として大分市にあるパークプレイス大分で実施し、19名が参加しました。この行事は、訓練との選択制となっています。

今回のパークプレイスは大型ショッピングセンターで、ショッピングはもちろん食事、映画、ゲームを楽しむ事ができます。館内は広く、ゆったりとしており、車イスでも十分楽しめる場所で、利用者は買い物やゲームなどで思い思いの時間を過ごしました。

終了後、全利用者にアンケートを実施しました。その概要は次の通りです。

- 参加した理由 ①気分転換のため ②ショッピングのため
- 参加しなかった理由 ①特に理由はない。②訓練優先
- 来年以降については、①続けた方がいい。②実施方法を検討して実施する。

九州車いすツインバスケットボールDリーグ戦

平成20年10月26日（日）に九州車椅子ツインバスケットボールDリーグ戦が別府市内にある朝日大平山地区公民館で開催されました。Dリーグには当センターのツインバスケットボールクラブの他、福岡 BEAT と福岡 WING の2チームが所属しており、当日は福岡の両チームと対戦しました。Dリーグ戦の1ヶ月程前から週2回（通常は週1回）に練習量を増やし特訓を行ってきましたが、2戦2敗という残念な結果に終わりました。当センターは円内プレーヤー（サークル内から1.2mの高さのゴールにシュートする選手）が多かったにもかかわらず、随所によいプレーが見られ、次につながる試合ができたと思います。今後の奮闘に期待します。



蛍の答礼

6月に行われた「蛍贈り」のお礼として、11月6日竹田市の南部小学校を利用者3人と職員5名が訪れ、児童とボッチャゲーム、食事会を楽しみました。

南部小学校の校内には、センターから贈られた手織りのタペストリーやトールペイントがいたるところに飾られており、センターとの交流の深さが感じられます。これからも、「蛍が結ぶ絆」がいつまでも続くように祈るしだいです。



(南部小学校の児童の皆さんと共に)



(レクリエーション (ボッチャゲーム) の一コマ)

修了生の状況

(平成20年7月1日～平成21年1月1日)

復帰形態	家庭復帰	就職	職業訓練校	自 営	病院	他施設	計
人 数	12	1	1	1	0	5	20
比率 (%)	60.0	5.0	5.0	5.0	0	25.0	100.0

職 員 異 動

庶務課

平成20年9月1日、平成20年10月1日付および平成20年11月1日付で職員の人事異動がありましたので、お知らせします。

平成20年9月1日付 転出

医務課介護員 峯野 雄一郎(国立身体障害者リハビリテーションセンターへ)

平成20年9月1日付 新規採用

医務課介護員 山岡真由美

医務課介護員 大森 洋一(任期付採用)

平成20年10月1日付 新規採用

医務課介護員 三浦 寿美

平成20年11月1日 新規採用

指導課生活支援員 松野麻美子(任期付採用)

利用者募集のご案内

当センターは、厚生労働省が設置・運営する指定障害者支援施設として、重度の肢体不自由の方が社会復帰が可能となるための必要な自立訓練（機能訓練）を中心とした様々な支援を実施しております。

当センターの利用にあたっては、お住まいの市区町村で福祉サービス受給者証を受ける必要があります。利用申込みや見学などのお問い合わせについては当センター指導課まで、ご相談下さい。

ご利用できるサービスは次のとおりです。

●自立訓練（機能訓練）

理学療法、作業療法、運動療法、職能訓練です。

利用期間は、標準利用期間として1年6ヶ月です。

自宅から通いながらの利用も可能です（通所）。

●施設入所支援

自宅から通えない方のために、看護・介護等の支援を受けながら寮のご利用が可能です。

お問い合わせ先

国立別府重度障害者センター指導課

住所 〒874-0904 大分県別府市南荘園町2組

電話 0977-21-0182（相談・受付窓口直通） FAX 0977-21-2794

E-mail soudan@beppu-nrh.go.jp <http://www.beppu-nrh.go.jp>